



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	課題Ⅰ：農産物市場における商業資本の機能と流通機構
Author(s)	川村, 琢; KAWAMURA, Migaku
Citation	北海道大学農経論叢, 25, 1-12
Issue Date	1969-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/10853">https://hdl.handle.net/2115/10853</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	25_p1-12.pdf



## 課題 I

# 農産物市場における

## 商業資本の機能と流通機構

川 村 琢

### 1. 課 題

広く各地においておもしろおもしろに生産されている商品の供給を、市場において需要と結合させ、その価格を実現し、流通せしめてゆく機能 (Function) は、いうまでもなく、商業資本の機能であって、その機能を発揮させるために、市場では独自の流通機構 (Structure) を対応させているものとみることができる。いいかえれば、流通過程における商業資本の機能と流通機構とによって円滑に商品が流通し、資本の再生産が具体的に進行してゆくのである。ところで、商業資本が産業資本から自立化して流通過程にだけとどまり、その機能をはたしながら、自らは資本として、平均利潤を獲得できるという根拠は、いうまでもなく、流通資本や、流通費用を節約し、商品の流通期間を短縮することによって全体として社会の利潤率の低下を、できるだけ少くするところにあるのだが、このことは、商業資本の受けもつ、最も困難な商品の命がけの飛躍といわれる販売を、急速にかつ多量に実現することであり、これを可能にするために具体的な市場の流通機構ができあがっているのである。いいかえれば、社会的需給の発展にみあった流通機構のもとに商業資本が存在し、その時期その場所における生産や消費の歴史的な性格に応じ、資本の量とその性格とが、その流通機構のもとで与えられるものと考えられる。そこで与えられた商業資本の機能として商品の価格は社会的需給を反映して実現され、商品の所有権は移動し、商業利潤を実現し、最終消費者の手にわたって、市場における流通は完了する。

しかしながら、現実の社会は歴史的な発展をとげるものであり、生産、流

通、消費のそれぞれも歴史的な性格をもっていて、商業資本そのものも流通機構とともに歴史的な発展をとげたものであるから、必ずしもその機能發揮のために理想的な姿をとるとは限らない。とくに流通過程にだけ存在する商業資本は生産や消費の歴史的な性格につよく規制され、そのなかで商業利潤を実現しその機能をはたすだけに、商品の種類に応じた商業資本と流通機構たらざるをえない。産業資本の発展に応じて商業資本はより商業資本としての性格を純化しながら、流通機構も単純化されてゆくのであるが、他面前期的な商人資本もおくれた生産や消費に密着しながら、この流通機構のもとでつよく存在しているのである。

さて、金融資本の段階にすすみ、巨大な独占資本のもとで、商業利潤が手数料化するとともに、商業資本の機能は制限され、自らは取引量を増大することによって対応するようにせまられると、これにあわせて流通機構も変化せざるをえないことはいまでもない。このなかにあつて、前期的商人資本や、弱小の商業資本も、変化した商業資本の機能や手数料化に歩調を合せざるをえないし、そのための流通機構もできあがるものと思われる。農業は、とくに旧態の小生産者を数多く残し、他面拡大され、集中化する食料農産物の需要に対応する商業資本は、金融資本のもとで与えられる機能の変化と、依然として残存する零細分散の生産のもとで、どのような対応を示すかは、戦後農業の商業化が顕著に進展するもつて明らかになりつつある。とくに1960年代以降の変化はいちぢるしく、これを第一次大戦後の恐慌のあとであらわれた変化に比較すれば、その変化のはげしさにおどろくほどである。いままで、このような市場における変化を商品としての多様性、多量性としてとらえ、あるいは、個々の流通機関の具体的な対応形態としてとらえたのであるが、最近、国家独占資本主義的市場再編成としてとらえようとする試みがおこなわれている<sup>1)</sup>。現代の資本主義の体制のなかで、農産物市場の再編成は生産と消費の複雑な、それぞれの性格の変化に対応する、現在もなお進行しつつある商業資本の機能の変化と、それにとつなう流通機構の変化を通じておこなわれるものと考えられるので、この変化が具体的にどのように

1) 農産物市場における国家独占資本主義的市場編成は流通・市場に対する国家の直接的な統制と掌握、ないし国家の直接間接の介入規制による市場の整備というように解されている。例えば御園喜博『農産物市場論』1966年、東大出版会240頁参照

進められているかをみようとするのがわれわれの共同研究のねらいである。

## 2. 商業資本の機能と流通機構

商業資本の運動形式  $G-W-G'$  は、元来産業資本の確立される以前から存在していた商人資本の運動形式でもあり、生産形態の如何にかかわらず安く買って高く売るという形式である。ここでは、生産が多数の小生産者によって営まれているばあい、小生産者を犠牲とした価値の収奪がおこなわれ、また無智な零細多数の消費者に対しては価値以上の価格で販売することも可能である。近代的な資本主義の生産方式をとらない生産条件と零細分散的で、そのうえ個別性のつよい消費の実態では、 $G-W-G'$  という流通過程における資本の運動は前期的商人資本の形式をとるものといわねばならない。

しかしながら、他面近代化された生産のもとでは  $G-W-G'$  の資本の運動は産業資本の流過程を分担する商業資本の運動として自立して存在する。資本主義社会の歴史的過程として、前期的なものと資本主義的なものとが混在しているなかでの  $G-W-G'$  の資本の運動であるから、この方式は商人資本的なものと資本主義的なものとが同時に併存して同じ方式で運動していることを示している。

ところで市場は資本主義の発展とともに絶えず拡大し、生産と消費の地域的な分離や時間的なへだたりが大きくなると、一部の生産のおくれた形態や消費のおくれた形態にもかわらず、拡大された市場に相応じて一般的な  $G-W-G'$  の方式に統一されるに至る。一般的にいて商品が生産者から消費者にいたるまでには、数多くの、しかも多様な商人の手によっておこなわれ、これらの商取引の系列のなかで、商業資本が自立化し大規模化しているのであるが、これら商業資本のつながりだけを見れば、商品流通のチャンネルとして、それぞれの商品について独自のつながりをつくりあげているとみることができる。ここでは集中的チャンネルと分散的チャンネルとに分類でき、生産者の生産物が中央大市場か地方市場に集中され、生産者の販売代理店としての問屋や取次商から、この市場で卸商や加工業者が購買する形態のものは前者であり、後者は、このような大市場の施設を有効に利用しえない、いわば、生産者から、あるいは小さな生産地から直接卸商や加工業者が

購買する形態のものである<sup>2)</sup>。

ところで、これら商品流通の過程のなかに介在するのは、いうまでもなく商業資本であって、生産者から買い入れて、これを消費者に売渡す商業資本は小売商の形態をとっているが、消費財のような多数の消費者を対象とする小規模分散的な小売商に対し取引数を減少させ、したがって流通費用を縮減するために、卸売商が小売商から分離するものだといわれている<sup>3)</sup>。資本主義のもとで、生産が集中拡大されるにつれて、商業資本も当然大規模化する必要にせまられるのであるが、他面消費財の消費の性格からは小規模の分散的なものにとどまらざるをえない。この矛盾の展開として卸売と小売の分離をみたのであるが、これによって商業資本の自立化のための商品資本や流通経費の節約が阻止されるのでもなければ、商業利潤が増大することにもならない。おそらく、この分離こそが、消費の零細分散に対応するための商業資本の対応であった。卸売商業資本は、さらに地域的に、商品の種類に応じて専門に細分されるとしても、基本的には同じである。このように卸売商業資本は細分されるにともなって、仲継的役割を主とする仲継卸売商業資本と分散的役割をはたす分散卸売商業資本とに分離し、これに小売商業資本がつづく。仲継と分散の卸売商業資本はさらに分化することになるのであるが、しかし、商業資本の自立化、大規模化のためには、仲継、分散の過程のなかでこれ以上分化する必要性はうすく、その分化の程度は商業資本自立化の歴史的な発展経過のなかで与えられたものである。

生産が産業資本のもとで大規模化するにもかかわらず、依然として残存する零細な生産や地域的に分散した生産は、仲継過程の集中した大規模の卸売

2) Marketing channel は農産物の場合とくに複雑であるが、この関係については Richard L. Kohls の *Marketing of Agricultural Products*, 1961 The Macmillan Company 及び Geoffrey S. Shephard の *The Marketing Farm Products*,<sup>9</sup> にそれぞれの農産物ごとにくわしくのべられている。しかし、なぜこのような channel を必要とするかは商業資本の機能の変化と、それにとまらざる流通機構の変化としてはじめて動的にとらえることができる。

3) 商業資本が小売と卸売とに分離されてゆく根拠について森下氏は M. Hall 女史の取引総数最小化の原理を重視しておられる。これは氏の云うように商業資本の自立化のための流通資本や費用の節約をねらったものである。これについては森下二次也、『現代商業経済論』昭和40年 有斐閣 141頁以下参照。

しかし、帝国主義の段階で、逆に小売と卸売の垂直的統合が進行するのは商業資本の機能の変化が流通機構を短縮したものとえよう。

## 農産物市場における商業資本の機能と流通機構

商業資本と直接結びつくことはむずかしい。おそらく数多くの取引が必要となるのであって、多数の零細な小売商と結びつく場合と同様に、生産された商品を収集する卸売商業資本の存在が、流通費用の節約のため必要となる。この収集過程にも多くの卸売商業資本が存在できることにもなるのであるが、市場の整備が進行するにしたがい、この過程のなかの卸売商業資本も整理されてゆく方向にある。

このように、いまでも存続している零細な分散的な生産と零細な消費とを結びつける消費財の商業資本は、三つの過程のなかの、それぞれの卸売商に整理され、これが最終的に小売商につながるものであって、これら収集、仲継、分散の三つの過程に介在する商業資本あるいは流通機関が、その過程でそれぞれの役割をはたすものとして、それぞれの過程の商業資本が資本主義の発展とともに自立化をすすめ、さらに金融資本の段階では、それぞれの過程の資本の性格も変化するものとしてとらえることができる。いいかえれば、おくれた生産と結びつく収集過程では前期的商人資本から脱脚することのむずかしさや、分散過程の小商人の存在の根拠や仲継や分散過程の卸売商業資本の自立化の進展、さらに金融資本の段階での手数料商人化の進行の形態などいずれも、以上の三つの流通過程のなかでの役割を前提として解明されるべきものであると考えられる。したがって、流通の機構は、とりもなおさず、以上の三つの流通過程が基本となってくみだてられているものといえよう。もとより、商品のなかには、限られた狭い範囲の分散的な市場もあれば、広い範囲にわたって成立する集中的な市場もあって、前者には生産者自らが仲継過程の小規模の卸商とつながるものや、生産者が直接消費者と結びあうものもあるが、今日では、その役割はいちぢるしく縮小されている。あるいは、小売商業資本の大規模化が仲継過程の卸売商業資本を包摂しているものや、その逆のものもあるが、これらは三つの過程の理解の上ではじめて解明できる性格のものであり、垂直的統合といい、あるいは水平的統合といい、ともに商業資本の大規模化が、前者において三つの過程の一つをのり越えたものであり、後者は一つの過程内での資本の集中集積であり、将来他の過程に進出する可能性をもつものである。いずれも、このような資本の集中集積は商業資本の次にのべる機能の変化に相応するものといえよう。

産業資本が金融資本に転化するにつれて、自立化した商業資本はいちぢる

しい制約をうけることになる。すなわち金融資本である巨大企業による管理価格の設定と供給の調整によって、市場における商業資本の機能は、調節された供給量のもとで、すでに設定された価格を実現しその商品を流通せしめるというにすぎない。この流通の機能は巨大企業の直接の販売や代理商であっても可能である。かつて生産者の価格の設定の如何にかかわらず商業資本によって実現される価格は市場の事情にあかるとい、経験を経た商人の活躍の独自の機能であったし、それによって需給が調節され、流通期間を短縮することによって商業資本は節約されるばかりでなくその専門的な活動によって流通費用も節約されたのであって、それは商業資本の自立化の根拠であった。

商業信用の発達には、いまや商品資本の貨幣資本への転形における貨幣の節約となり、商品から貨幣への「命がけの飛躍」をも容易にすることができる。大量に売買が商業資本のもとに集中すれば、商業信用の進展と相まって商業資本が社会的需給を結合し、商品流通を仲介する機能は、さらに一段とすすみ、商業資本の一部は仲継過程でとくにみられる取次商あるいは代理商として、物品の販売、買入の取次をおこない、あるいは商行為の代理または仲介をして手数料を獲得するにすぎない流通費用を代位する商業資本の形態に発展する。

巨大独占企業にあっては収集の過程は最初から不必要であるが、仲継分散過程の卸売商業資本は消費が零細で分散している場合に多数の小売商と結合するために必要である。商人資本のもとで発展した問屋制度とはちがって、資本主義が確立したあとでの問屋の大部分は、すでにのべたような、売買を集中し、商品の所有権移転の仲介と場所的移動を目標とする依託売買に転化することによって、商業資本の機能を軽減することになった。ここまで進展すると商業利潤は手数料へと転化せしめられる。

巨大独占資本の系列のもとでできあがるが商業利潤の手数料への転化にともなう、一般商業資本の利潤の手数料化も進行する<sup>4)</sup>。しかしながら他方

4) カルテル化が商業資本に強制するものは、その機能の制限であり、価格は設定され、商業利潤のかわりに手数料が商人に与えられるにすぎない。くわしくはヒルファーデング、林要訳『金融資本論』1956年 大月書店 346頁参照。  
帝国主義の段階で利潤が手数料化する形態が農産物市場では、各流過程でどのようにならわれるかが問題である。

商業資本自体の集中集積に基く巨大化にともなう利潤の手数料化を防止しようとするための競争もまたおこなわれる。これら巨大化した商業資本はデパートメントストア、デスカウントハウス、スーパーマーケットの形をとって対応するのであるが、彼らは同時に中小企業の商品を取扱うことによって、競争の上での有利な立場に立ち、商業利潤の拡大をねらうことはいうまでもない。これら巨大な商業資本は商業利潤をたかめるため、資本の集中集積のもとで、流通経費を節約し、商業信用を最大限に利用して、分散過程ばかりでなく仲継過程の卸売の機能をも自らの機能のなかに包摂し、さらに零細分散的な小生産者に対して契約生産を強制し、市場に占める支配的立場を決定的ならしめる。零細生産に対して、零細な商人、いわゆる小商人の存在を無視しているわけではない。小商人は主として家族労働力に基く生活のための営みであり、彼らはわずかな利益でもって営業をつづけているのであるが、おくれた生産者を相手とする限りその性格は前期的商人資本であり、取扱量が少いため、しばしば生産者の弱点につけこんでの高率の利益をあげようとする。大衆的な消費を対象とする小売における小商人も同様な性格をもっている。

収集過程における商人資本的収奪から脱却しようとする零細生産者は、あとでのべるように協同組合を結成し、少い、限られた資本でもって生産物を収集するために最初から依託販売の形態をとらざるをえないのは当然であるが、集荷とその販売は、限られた手数料のもとにおこなわれ、これはまさに商業利潤の手数料化に呼応した形態であるといわねばならない。

このようにして、金融資本の段階においても、市場全体としてみれば、商業資本の機能の変化に応じた商業利潤の手数料化のなかにあって、おくれた商人資本は収集過程では協同組合によって、分散過程では商業資本の集中集積による大規模化におされて姿を次第に消滅しつつあり、仲継過程では、ますます現代的な商業資本に成長するか、あるいは分散過程の資本と統合して大規模化する方向をたどりつつある。したがって、巨大独占資本の商品ではすでに収集過程を排除し、最終消費に結びつく商品では仲継及び分散過程のなかに独立した卸売や、小売の商業資本を必要とするものもあるが、次第に資本は集中し、流通過程を縮少する方向にむかっている。しかしながら、農業における生産形態のおくれや、食料としての消費の特殊性などから、三つ

の過程は、いまもなおつよく残存し、農産物流通の独自の機構となっていることは、あとで示す通りである。

### 3. 農産物の流通機構

農産物商品を取扱う商業資本の機能は、金融資本の高度に進展をみた段階において示す農業の性格に規制されて、収集過程では協同組合、仲継過程では商業資本を通して存在している。農業は一般に産業資本の確立された後においても資本家的生産は支配的になりえず、小農のままでの市場対応が主体をなしていた。金融資本の成立のあとは、ますます資本家的生産への発展はむずかしく、小農のまま商品化を進展せしめたということができよう。ここで、現段階での小農の存続の根拠にふれる必要はないが、少なくとも農産物を商品として提供しながら同時にいまの経済構造のなかで労働力をも提供するという農業の性格から規制されているということを指摘しておく。とにかく小農としての商品の販売である限り、それに対応する商人資本は、小農はそれを通じてしか商品化できないという強味から、高度に発展した資本主義にもかかわらず、かつての商人資本としての性格をもちつづける根拠が与えられているが、他面狭い生産の範囲に固定された収集過程の資本は借入れの高金利にたえ、多くの危険負担にたえる高利潤が必要だったわけでもある。しかしながら、かつての商人資本の全盛の時期は過ぎ、商業資本が産業資本とならんで存在した自由主義の時代を経過して、いまや一方においては巨大独占資本の市場支配ができあがると、商業資本は、そのもとで機能を縮小し、手数料商人へと転落していったのである。農業生産は零細であり弱体であるといっても、農産物を取扱う収集過程の商業資本も一般にこのような手数料商人化する傾向から独立しているわけにはゆかない。すでに巨大独占資本のもとで縮小された商業資本の機能、いいかえれば独占資本によって設定された価格の単なる実現と所有権の移転を仲介するという機能は、農業の商業化の進展と流通過程への国家の介入にともなって直接、間接に設定された価格の実現をめざす協同組合の機能となってあらわれた。いまや農産物の収集過程に直接対応する商人資本独自の存在は困難となるに至った。すなわち、協同組合の商品買取資金を節約する依託販売による手数料化に対抗して商人資本はその僅少の商品の買取販売をもってしては存続ができにくくなったか

らである。価格変動のはげしい果実やそ菜や投機的な菜豆などをのぞけば、いまや商人資本の存在はいちぢるしく困難になっている。

ところで農産物については、すでにのべたように、生産も消費も零細分散的であるために、生産から消費に至る過程は収集、仲継、分散の三つの過程をとっているが、国家の価格介入は、主として収集過程であり、すべての過程にわたりおこなわれているわけではない。消費と結びつく分散過程の小売商は利益率は高いが利益額が少いという、小商人的な性格が与えられているとみなければならない。これに対し収集の過程では、たとえある程度の国家の価格介入があったとしても、小生産者である限り、自ら協同組合を形成しえない場合には、商人は資金の前貸の形で規格鮮度を規定しながら買取ってゆく方式、生産者の価格の設定の困難さに乗じて安く買って高く売るという商人資本の方式がとられるであろう。

このように、収集と分散の過程での商人の利潤は、いわば相手の弱さに乗じての利益の獲得であったが、彼らといえども問屋からの高金利の借用に依存して自らの利益をかろうじてあげるといった状態では、実質的には手数料的収益をえていたにすぎない。仲継過程では、市場の範囲も広く、しかも収集、分散過程の商人に対しては資金や農産物の前貸をおこない、自らは農産物の依託販売という有利な立場に立つことができた。しかしながら、銀行の発達や農業の進展にともない、旧態の仲継過程の卸商は仕込制度の崩壊とともに、かつての優位さを失った<sup>5)</sup>。

農産物商品の大量が資本主義の発展にともなって市場に流通するようになると、仲継過程の商業資本は近代的な姿でもってあらわれる。農産物を集出し、規格し、迅速にこれを輸送し、または貯蔵して時間的にも空間的にも拡大された市場に対応し、需給の調節をはかることが、商業資本の機能を遂行するのに必要な条件となった。このような仲継過程の商業資本は、市場の拡大にともなって大規模化せざるをえないし、交通の中心地に立地せざるをえない。輸送、貯蔵の生産的過程を商業資本の機能発揮のために自らの過程に

---

5) 収集ならびに仲継過程における、商人資本がどのような形態で結びついていたかは歴史的に興味ある問題である。仕込制度のなかで存在していた商人資本が農業の商業化と銀行の発達のもとで消えていった過程は例えば北海道の豆類の販売についてみられる。くわしくは、榎 勇 『農産物流通史論』 1966年 御茶水書房参照。

包摂して、仲継過程の商業資本は他の流通過程の商業資本に対し支配的な立場に立つことができ商業資本の自立化がすすめられた。この仲継過程で設定され、実現される価格は他の過程の価格に対し社会的需給を表現するものとして、指導的価格となった。価格の時間的空間的平準化が進行した。しかしながら零細分散的な農産物の生産は年々変動し地域的にも変化しているので、これが消費の硬直性に対しては、絶えず変動する価格となってあらわれ、これにともなう投機性は仲継過程で端的にあらわれる。

主要農産物価格に対する国家の直接的介入によって、少なくとも生産者との関係では商人資本の価格設定、実現の機能は単に価格実現の機能に縮小されるにいたり、従来からの仲継過程の商業資本の機能は単純な流通の仲介にとどまり、商業利潤は手数料へ転落する傾向をつよめざるをえなくなった。収集過程において、国家によって設定された価格の実現と、生産者からの生産物の依託は、農業の商業的發展につれて協同組合の形態でおこなわれ、その縮小された手数料のもとでは、小量の商品を買取る商人の経済的存立の基盤は破壊されるに至った。したがって、収集や分散の過程に小商人の存続しうる余地は、価格の設定の自由な野菜や果実、小豆菜豆をのぞけば、いちぢるしくせばめられたといわねばならない。

#### 4. 結 語

農産物の流通機構は三つの過程に分離され、流通機関はそれぞれの性格に応じて配置されている。巨大企業の流通過程が短縮されていっているなかで、農産物に関しては、これを縮小することはむずかしい。このような三つの過程のなかにある、商人資本、協同組合、商業資本および小商人は、それぞれの過程のなかで、さらに細分され、いろいろな名称をもって存在しているが、それは農産物の種類により、その地域の長い伝統に裏づけられた生産者や商人、需要者の性格に基くものとみることができる。商業的農業の発達につれて協同組合が進出し、次第に収集過程にある農産物取扱の商人資本は整理されていっているが、さきにも述べたように市場制度や価格制度に対する国家の介入がつよまるにつれて、商業資本の機能は縮小し、流通機構は本来の三つの過程に整理され、集約される方向に進んでいっている。ただ農産物の食料としての重要性からでてくる流通の迅速さの必要や国家の価格に介入する度合や加工資本の参加、輸送、貯蔵の難易によって流通機構や商業資本

の機能の制限の程度が異なり、それぞれの農産物の市場形態がつくりあげられているものとみることができる。すなわち、貯蔵性の低い加工資本の参加しない、価格に対して直接的には国家の介入しない生鮮食料品には、三つの過程のなかの仲継・分散過程に卸売市場が制度化されてくみこまれ、一部貯蔵もおこなわれているが、主としてここで空間的に拡大された市場として価格の設定がおこなわれる。貯蔵性の高い豆類などには仲継過程に時間的にも空間的にも拡大された価格設定の機能をはたす商品取引所がくみ入れられている。さらに加工して販売される農産物には仲継過程に加工資本が介入している。その他主要な農産物は直接間接収集過程の価格設定の機能を国家にゆだね、各過程に存在する商業資本ならびにその他の流通機関の機能は、さきへのべたように、制限されるが、ここでは仲継過程の商業資本が貯蔵輸送の機能と結びついて、その役割は大きく、それだけに流通の機構は三過程に集約されて、ここに存在する流通機関の数は縮小されるに至った。しかしながら、国家の価格や市場に対する介入にはそれぞれ違いがあって、米のような生産者価格や消費者価格を公定し、流通の三つの過程における手数料まで規定しているものから、牛乳のように生産者価格の不足分について交付金を国家が提供し、国家の指定した生産者団体が加工資本と協定して取引数量を決定しているもの、肉類のように上限下限の価格を規定して、これを超えて価格が変動する場合、国家の機関が商品を買入れ、あるいは放出して安定した価格を実現しようとするものなどがある。米は収集、分散過程を主として対象としているのに対し他は収集仲継過程の価格に対する国家の介入であって、このような国家の価格への介入は、価格安定のための財源に制約されており、農産物の種類によって相違する多様な価格制度ができあがっている。現在実施されている国家の介入は農産物を取扱う商業資本あるいは協同組合の機能の發揮に適切であるかどうか、また価格の安定にどの程度の効果があったか重大な問題があるが、少なくとも流通機構を単純化し、機構のなかの各過程の商業機関の機能を現代的なものに近づけるのに役立つものといえよう。

かつて昭和初期の恐慌のもとで商業資本の機能の変化に応じ利潤の手数料化の進行にともなう流通過程の三つの過程への純化は、さらに戦後になって、人口流出のもとで一層すすめられ、分散過程の小売商業資本の一部の大規模化と、さらに仲継過程の商業資本と統合しようとする動きがみえはじ

め、同時になおつよく存続する多数の小商人が依然として三つの過程をつよく必要としている現在の状態ははなはだ複雑ではある。しかし、全般的に三つの過程のなかの商業資本は単純化され、そのなかでの商業資本の制限された機能は明確となり、それぞれのもつ問題点も明確になりつつある。このことは、すでにのべたように、農業が帝国主義の段階で、その再生産構造のなかにくみこまれる過程ではたす商業資本の対応であり、この段階での市場の再編成であるということができよう。

# I THE FUNCTION OF COMMERCIAL CAPITAL AND MARKET STRUCTURE FOR FARM PRODUCTS

By

Migaku Kawamura

Agricultural products flow from the producers to the consumers through three basic processes of marketing, i. e., assembling, equalization and dispersion. The social function of commercial capital lies in price formation and adjustment of demand and supply relations at each process of the marketing in which it pursues own interest. The structure of agricultural market in this country is featured by three groups of commercial capitalists; (1) traditional commercial capitalists who carry on their business in dealing with traditional type of agricultural commodities produced by numerous, separated and small sized peasants, in the assembling process, (2) relatively well developed and larger scale commercial capitalists who earn the normal rate of profit of capitalists in general, in the equalization process, (3) retailing commercial capitalists who carry on their business in dealing with infinitesimal units of purchases of numerous consumers.

Although specialization and consolidation have been proceeding on with their effort in their fields of activities, the commercial capitalists can hardly attain a full accomplishment for public interest. The unfavorable conditions of inefficient structure of production and consumption which give rise to abrupt fluctuations and maladjustment in prices and the supply and demand conditions is the major factor of retaining unproductive commercial capitalists. This situation of agricultural market structure is well contrasted to the general trend of increasing size of business and expanded markets for products in the rest of the economy.

Inefficiency and low accomplishment of the commercial capitalists pave the way for the state intervention on the markets and on the price formation. Governments have been undertaking price setting in direct ways or indirect ways, and imposing institutional frameworks for reorganization of the market structure to the effect of reducing the profit of the commercial capital to an ordinary rate of fee and charge. At the same time, new types of market

organization have been emerging against the traditional commercial capitalists. Farmers' co-operatives in assembling process are one of the examples. The traditional commercial capital tends to be reformed to intermediary or agency business under public regulation in wholesale market. Public organization for retail saling, chain stores and supermarkets by more efficient commercial capital are also the new development to cope with the difficulties with the traditional commercial capital.

However, the agricultural markets are still predominated by a pervasive power of the traditional commercial capital which is striving for its own course of development on the existing structure of farm production and consumption, technical factor of farm products, the historical trait of the industry, and the surplus labor force of the economy. The structure of agricultural markets as a whole may be described as a texture which is interwoven by these varied underlying forces.